

日本助産学会ニュースレター

巻頭言

障害をもつ赤ちゃんの声を伝えて！

先天性四肢障害児父母の会 会長 野辺明子

我が子が思いもかけない「障害児」だと知らされて、大きなショックを受けたかつての私。産院から無事に退院したものの、何とかして手術で障害を治してやろう、治らないうちは娘の手を人目にさらしたくない、とばかりに、真夏でも白い手袋が手放せなかった日々が1年半も続いたのでした。

娘を可愛いと思いながら、指のない手をどこか恥ずかしいと思い、道で赤ちゃんや幼子が目に入るとその子の顔などどうでもよく、さっと手を見て指の数を確認し、「あの子にはちゃんと指があるのに、何で私の子には…」と悲しくなるのでした。「ありのままに受けとめて」なんて他人の慰め言葉は何の力にもならなかった。きっと今でも30数年前の私のように辛く苦しい気持ちを抱えながら、神経張りつめて赤ちゃんや子どもと向き合っているお母さんがいっぱいいるに違いありません。みんな、頭では分かっているのですよ、この現実を早く受け入れなければ、と。でもね、心と頭が分離状態の時は外出先でのちょっとした出来事にも決心は揺れ動き、涙がこぼれて、そんな弱い自分に自己嫌悪する、という繰り返しなのです。

親たちの揺れ動く不安な気持ちをいつしか慰めていくもの、それは子どもたち自身の健やかな成長です。心身に重い障害をもった赤ちゃんの場合、成長のあかしは1年経っても2年経っても他人の目にはそれとわかるような変化はないけれど、いつも我が子に心と目を注いでいる親にはちょっとした変化も分かるもの。そうなったらしめたもの。うれしくなります。我が子のからだの特徴や独特の成長のリズムが伝わってくるというか、キャッチ能力を親はいつしか身につけていくんですね。苦しいことも多いけれど、時間が経つといいものです。障害児の親歴34年の実感です。はじめのうちは子どものいのちがもつ健やかさと「障害」という現象が一人の人間の中で共存していることに親はなかなか気づけないのですね。

最近、ラジオですてきな歌を聴きました。ある男性歌手が「ありのまま そのまま 私のままで」と歌っている。いいなあ。ありのまま、そのまま、わたしのままで、か。そうそう、そうなのよ、子どもたちって生まれついたその時から、ちゃんと歌っているんです、ありのまま、そのまま、わたしのままで、って。そのままのわたしを愛して、と泣いていたのかもしれない。動転している親にはなかなかその声が聴こえない、届かない。赤ちゃんや子どもたちの声が聴こえる人、佇んでしまっている親たちに赤ちゃんの心を伝えて！

委員会報告

1. 第20回 日本助産学会学術集会ご案内

学会事務局 砥石和子

チームで育つ助産のチカラ

第20回日本助産学会学術集会

2006年3月4日(土)～5日(日) 会場：東京ビッグサイト

会長：杏林大学医学部付属病院 福井トシ子 <http://jam2006.umin.jp/>

==== JAM2006 速報!! ランチョンセミナー開催!! =====

ランチョンセミナーは先着順による定員制です。事前登録された学会員の先着300名さまに限り昼食(軽食)整理券を3月4日(土)12:30分より会議棟6階学会場「総合案内」周辺で行います。*事前登録は1月31日までです。お早めに登録をお願いします。

第1日目3月4日(土)

- 日本助産学会総会 9:30
- 第20回日本助産学会学術集会記念式典 10:20
- 会長講演「チームで育つ助産のチカラ」 13:10
演者：福井トシ子(杏林大学医学部付属病院)
座長：宮崎文子(大分県立看護科学大学)
- 特別講演「揺れる家族」 13:50
演者：芹沢俊介(社会評論家)
座長：堀内成子(聖路加看護大学)
- 教育講演
「周産期の紛争防止・紛争解決 -対話による取り組み-」 14:50
演者：和田仁考(早稲田大学大学院法務研究科)
座長：岡本喜代子(おたふく助産院 日本助産師会安全対策室)
- シンポジウム
「周産期のリスク共有コミュニケーション」 15:40
座長：佐山静江(獨協医科大学病院)
中西淑美(大阪大学コミュニケーションデザインセンター)
演者：原田悦子(法政大学社会学部)
勝村久司(医療情報の公開・開示を求める市民の会、陣痛促進剤による被害を考える会)
稲葉一人(科学技術文明研究所 特別研究員、元大阪地方裁判所判事)
山本智美(社会福祉法人 聖母会 聖母病院)

■懇親会

【日時】2006年3月4日(土) 18:00～20:00

【会場】東京ベイ有明ワシントンホテル 20階
CHAINA GRILL Madam XENLON

【会費】5,000円(振込用紙の参加希望欄にチェックか参加希望とお書き下さい)

《お問合せ先 第20回日本助産学会学術集会事務局》

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2 杏林大学医学部付属病院看護部

TEL 0422-47-5512 (内線 7305) FAX 0422-44-0574

Email jam2006@kyorin-u.ac.jp 担当: 砥石和子

第2日目3月5日(日)

●教育講演

「チームでケアを提供するということ」 9:30

演者: 沼田直子(石川県能登中部保健福祉センター・羽咋地域センター 所長)

座長: 毛利多恵子(毛利助産所)

●一般演題(口演・ポスター) 9:30～17:00

●ワークショップ1: チームのチカラで創る院内助産院システム 10:20～12:00

座長: 遠藤俊子(山梨大学医学部看護学科)

葛西圭子(NTT東日本関東病院)

●ワークショップ2: チームのチカラで支える助産師の現任教育 13:20～15:00

座長: 村上睦子(日本赤十字社医療センター)

石川紀子(社会福祉法人恩賜財団 母子愛育会愛育病院)

●ワークショップ3: チームのチカラで支援する周産期の看取りのケア 13:00～14:40

座長: 舛森とも子(葛飾赤十字産院)

太田尚子(天使の保護者ルカの会)

●交流セッション: チームのチカラで支える産婦の自由な分娩体位 15:00～16:40

座長: 中根直子(日本赤十字社医療センター)

戸田律子((特) いいお産プロジェクト)

●ランチョンセミナー: 「周産期のアロマセラピー」 12:20～13:20

コーディネーター: 鮫島浩二(さめじまボンディングクリニック)

高橋久子(杏林大学医学部付属病院)

■参加費

【前納】会員 8,000円、非会員 9,000円、学生(大学院生除く) 4,000円

【当日】会員 10,000円、非会員 12,000円、学生(大学院生除く) 5,000円

【医療関係者以外の一般の方】2,000円を当日会場でお支払い下さい。

*収録集は別売りで2,000円です。

◆学術集会及び懇親会参加振込先

郵便振替口座: 00110-1-760136

加入者名: 第20回日本助産学会学術集会

2. 平成 18 年度 日本助産学会 研究助成公募

応募締切日：平成 18 年 3 月 24 日（金）

平成 18 年度の研究助成応募は、以下の要領にしたがって手続きくださいますようお願いいたします。

〔応募手続き〕

1. 応募資格

- * 日本助産学会員として 3 年以上加入している会員であること
- * 共同研究者は会員であること（加入年数は問わない）

2. 申請書の請求

日本助産学会ホームページ (<http://square.umin.ac.jp/jam/>) の、研究助成からダウンロードできます。

または、氏名・所属機関（大学・学部等）の名称・送付先を記入の上、郵送料として 90 円切手を同封して

下記宛にご請求ください。（急ぎの場合は速達量 270 円切手同封のこと）

3. 応募方法

日本助産学会の申請書に必要な事項を記入し、作成した申請書の正本 1 部、副本 10 部、返信用はがき（受付連絡用）を同封し下記にお送りください。

返信用はがきには、研究代表者名、郵便番号、あて先住所を記載して下さい。

申請書は受け取りを確実にするため簡易書留でお送りください。

申請書の受付は 3 月 24 日必着です。以後は受け付けませんのでご注意ください。

申請書は日本助産学会にて受付後、受領はがきを送付しますので、ご確認ください。

4. 研究課題

1) 委託研究課題

本学会は「健やか親子 21」の推進協力団体として登録しております。

推進協議会における課題は、

課題 1「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」、課題 2「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」です。そこで、本事業に関連した研究課題を公募します。詳細は「健やか親子 21」の下記のホームページをご覧ください。

<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/>

2) 学術奨励課題

助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学術的調査、研究など

5. 応募締切日

平成 18 年 3 月 24 日（金）必着

6. 助成規模

委託研究助成 2 件以内（50 万円 / 1 件当たり）

学術奨励研究助成 2 件以内（30 万円 / 1 件当たり）

7. 助成者の決定および通知

助産学会理事会で審議決定する。採否については文書で通知します。

8. 応募に関する留意点

申請者は、直接書き込みまたはコンピューター入力してください。

手書きの場合は黒ボールペンでわかりやすい字体で丁寧にお書きください。

提出された申請書は返却しません。

9. 問合せ先（申請書の請求先）E-mail:jam1987@ninus.ocn.ne.jp

日本助産学会事務局：〒102-0071 千代田区富士見 1-8-21 東京都助産婦会館内 3 階

事務局からのご連絡

平成 18 年度会費（10,000 円）納入について

次年度の年会費納入時期になりました。

- ・ 口座引落をご利用の方は、2月23日（木）の引き落とし日までに口座の残高ご確認をよろしくお願いいたします。
- ・ 郵便振込をご利用の方は、なるべくお早め（3月末）のお振込をお願いいたします。
振込先は下記（同封の振込用紙か郵便局備え付けの振込用紙をご利用ください）
振替口座番号：00100-5-83244
加入者名：日本助産学会
- ・ 平成 18 年度から退会希望の方は、必ず平成 17 年度までの年会費納入の上、事務局に退会をお知らせ下さい。
ご連絡がない場合は会員継続とみなし平成 18 年度分の年会費をお納めいただくこととなります。
- ・ 口座引き落としご利用の方で退会希望の場合は、1月末までに必ず事務局にご連絡下さい。
それ以降は解約手続きが間に合いませんのでご注意ください！
- ・ お納めいただいた会費は、会則第 7 条（三）にありますようにお返しできませんのでよろしくお願いいたします。

変更届について

住所・姓・勤務先および送付先等、変更の場合は必ず事務局までお早めにお知らせください。
変更後の連絡がありませんと、当学会からの送付が途絶えてしまいます。

年 2 回発行の学会誌と年 3 回発行のニュースレターが届かない場合は、会費納入・変更届などを忘れていた可能性がありますのですぐに下記事務局へご連絡ください。

《連絡先》 日本助産学会事務局

〒102-0071 東京都千代田区富士見 1-8-21 東京都助産婦会館内

Tel & Fax：03-3221-0417（月・水・金・以外は留守電対応）

E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp

円滑な事業推進にご協力下さいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

*****募金のお願い*****

本学会では下記の募金を受付けています。
会員の皆様のご協力をお待ちしています。
振込用紙を同封いたしましたので、どうぞご利用下さい。

- * ICM スポンサー・ア・ミッドワイフ (国際基金) の募金について
発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。一口2,000円です。

振替口座番号：00190-8-710931

加入者名：日本助産学会国際基金

- * セーフマザーフード基金の募金について
世界で妊婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産の知識の発展を支援するための募金です。一口1,000円です。

振替口座番号：00240-8-6818

加入者名：日本助産学会 ICM セーフマザーフード基金

今回募金のご協力いただきました方々 (敬称略) を掲載させていただきます。

- * ICM スポンサー・ア・ミッドワイフ (国際基金) (募金者 31名、募金額 102,000円)

井関敦子、大井伸子、岡永真由美、賀久はつ、加藤美奈子、加納尚美、河相佳子、川中洋子、木村宣江、黒田緑、佐々木和子、嶋田紀磨子、菅田倫子、菅沼美奈子、杉浦恵子、鈴木和代、園生陽子、多賀珠子、高橋弘子、瀧澤和子、内藤直子、中根直子、平山恵美子、堀内成子、堀川彰子、榎下いく子、三澤寿美、三井政子、宮崎文子、村山郁子、柳吉桂子

- * セーフマザーフード基金 (募金者 36名1団体、募金額 123,000円)

井関敦子、岩本美佐子、内野秋子、大井伸子、岡永真由美、賀久はつ、加藤美奈子、加納尚美、河相佳子、川中洋子、木村宣江、黒田緑、月僧厚子、佐々木和子、嶋田紀磨子、菅田倫子、菅沼美奈子、杉浦恵子、鈴木和代、園生陽子、多賀珠子、高橋弘子、瀧澤和子、内藤直子、中根直子、野田洋子、平山恵美子、堀内成子、堀川彰子、榎下いく子、三澤寿美、三井政子、宮崎文子、村山郁子、柳吉桂子、徳島大学 記念事業促進会

ご協力ありがとうございました。

引き続き 皆様の暖かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本母子ケア研究会

第7回学術・実践報告会のご案内

“母乳育児をつまずかせないために”

ほとんどのお母さんが母乳で育てたいと願って母乳育児をスタートさせるにもかかわらず、挫折してしまう大きな原因は「おっぱいが張って痛い」「乳首が切れた」などの痛みによる授乳困難です。今回の実践報告会では「母乳育児をつまずかせないために」と題し、産後間もない時期に起こりがちな乳房・乳頭トラブルを中心に、母子に優しいケアである Total Breast Feeding（総合母乳育児）の視点から、その対策とケア方法について紹介していきたいと思います。教育講演では「障害児への母乳育児支援」の観点から口唇口蓋裂児へのケアについてご講演いただきます。教育講演では、自らが障害を持つ身として「運命の顔」ほか多数の体験記を出版され、障害者の偏見・差別問題に取り組んでおられる藤井先生により、障害児をもつ家族の支援について理解を深めるための講演をお願いしています。会員、非会員に関わらず多数の方々のご参加をお待ちしております。

日本母子ケア研究会会長 松原まなみ

日時 平成 18 年 6 月 4 日 (日) 会場 銀座ヤマハ ホール 定員 400 人
 参加費 会員 ¥5,000 非会員 ¥7,000 当日参加 ¥8,000

※ 5/26 (金) 日付以降の入金は会員・非会員に関わらず、当日扱い ¥8,000 になります。

プログラム	9:20 ~	開場・受付	
午前の部	9:50 ~ 10:00	開会挨拶	
	10:00 ~ 11:00	基調講演 僕と母との物語 ～障害を持って生まれて～	鳥取大学 藤井 輝明
	11:00 ~ 11:45	教育講演1 口唇口蓋裂のチーム医療	昭和大学 大久保文雄
	11:45 ~ 12:15	教育講演2 口唇口蓋裂児への母乳育児支援	川崎医療福祉大学 篠原ひとみ
	12:15 ~ 12:30	総会	*会員の方は出席して下さい。
	12:30 ~ 13:30	一昼休みー (会場内での飲食は出来ません)	
午後の部	13:30 ~ 14:30	シンポジウム 「母乳育児をつまずかせないために」	
		産褥早期のスタンダードな乳房ケア	バースあおば 仲 かよ
		産後3～4日目の乳房緊満とそのケア	高橋母乳相談室 高橋恵美子
		授乳を継続するための乳腺炎のケア	小山自然育児相談所 伊東 厚子
		産褥早期におこる乳頭トラブルとそのケア	くまがい産婦人科 武石美智代
	14:40 ~ 16:00	フリーディスカッション	
	16:00	終了	

■都合により一部内容が変更になる場合もございます■

① FAX 又は郵送にて申込み下さい (お一人1枚で記入して下さい)

(郵送の場合) 〒824-0024 福岡県行橋市高瀬 443-19 日本母子ケア研究会事務局(松原)宛
(FAXの場合) 0930-25-5028

ふりがな

お名前 _____ 資格(助産師・看護師・保険師・その他)

所 属 _____

選択して下さい(会員/非会員) ※年会費を2年以上未納の方は非会員扱いになります。

《参加証お届け先アドレス》お届け先は郵便が届くように記入して下さい。

〒 _____

_____ 県・都・府 _____ 市・郡 _____ 区 _____ 町

_____ 施設名 _____

Eメール _____

電話 _____ Fax _____

②参加費を郵便振替にて払い込み下さい。 <参加費> 入金締め切り 5/26 (金)

郵便口座 00160-2-539541 会員: ¥5,000 非会員: ¥7,000

口座名義 日本母子ケア研究会 (会員・非会員を振込み用紙通信欄に必ず記入下さい)

以上の手続きで受付手続き完了となります。

③入金確認後、参加証のハガキをお届けいたしますので当日、ご持参下さい。

※ キャンセルについて

5/20 迄にお知らせ下さい。返金事務手数料として、¥1,000 のキャンセル料をいただきます。

なお、5/21 以降のキャンセルにつきましては、参加費の100%がキャンセル料となります。

【第7回日本母子ケア研究会：お問合せ先】

日本母子ケア研究会事務局 担当：松原

電話 / fax 0930(25)5028